

# はせがみ 馳上遺跡第3次発掘調査説明会資料

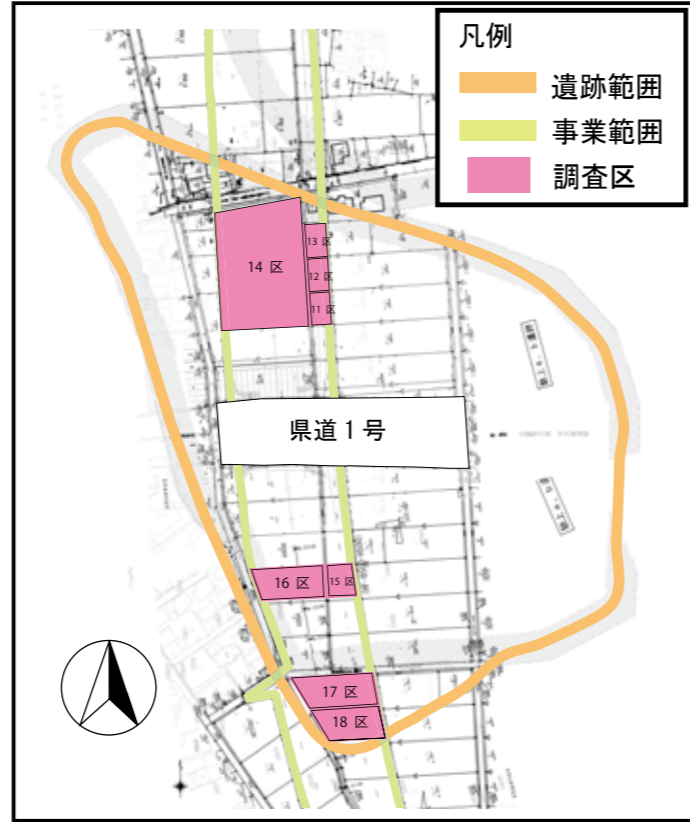
2010年11月13日(土)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター

## 調査要項

遺跡名	はせがみ 馳上遺跡
遺跡番号	353・354(米沢市遺跡番号)
所在地	米沢市大字川井字元立
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道(米沢～米沢北間)建設事業
調査面積	8,800㎡
現地調査	平成22年5月14日～平成22年11月30日
遺跡時代	古墳時代 奈良・平安時代
遺跡種別	集落跡
遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・河川跡・溝跡 土坑・柱穴・炉跡
遺物	土師器・須恵器・黒色土器
調査担当者	調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 専門調査研究員 須賀井新人(調査主任) 調査研究員 菊池玄輝 調査員 五十嵐萌 調査員 岩崎恒平 調査員 山木 巧
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 米沢市教育委員会 置賜教育事務所



遺跡位置図 (1:25,000)



馳上遺跡第3次調査計画図 (1:5,000)

## 1. 調査の概要

馳上遺跡は米沢市役所の東方約1kmに位置し、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡と推測される遺跡です。西側を流れる羽黒川によって形成された後背湿地上に立地し、現在の地目は水田となっています。

馳上遺跡では、平成12年度に県道改良工事に係る大規模な発掘調査(第1次調査)が行われました。また昨年度(平成21年度)には、高速道路建設に伴う第2次の発掘調査を、遺跡範囲の西域に当たる11,750㎡を対象として実施しました。今回の調査(第3次調査)は、第2次調査に継続するもので、遺跡範囲西側の南北両端域に係る約8,800㎡を対象としました。

調査区は既設・仮設の排水路により大小8区画(11～18区)に分割され、北側の14区は工事用道路との関連から、東西に二分して調査を行っています。調査区内における地盤の高さはほぼ一定ながら、遺構や遺物の分布は14区と16区に多く認められます。

## 2. 検出遺構

今回の調査で見つかった遺構には、住まいや倉庫であった竪穴住居跡や掘立柱建物跡、廃棄物用の穴と考えられる大小の土坑、区画や排水に使われた溝跡などがあります。また、羽黒川の支流であったと思われる河川跡が複数見つかかり、住居跡などの遺構はこれら河川間の比較的安定した場所に築かれています。

竪穴住居跡は30棟あまり確認され、一定の区域に重複したものが存在する状況から、集落の変遷過程を探ることができそうです。大きさは方形の一辺が3～5mの規模のものが一般的ですが、14区では一辺の長さが9mにも及ぶ大型の住居跡が1棟確認されています。

掘立柱建物跡は、規模の大きな柱穴からなる3棟が見つかりました。これらは東西二間×南北三間の配列で、柱間の距離は九尺(約2.7m)を、また柱穴掘り方は径・深さとも約1mの大きさを測るものです。

幅が12～15m程の河川跡は、大きく蛇行しながら遺跡内を南から北へ流れています。川底までは約1.5mの深さがあり、土層は砂と粘土が交互に堆積していました。粘土層は腐植により黒ずんでおり、この時期には水の流れが緩やかな湿地になっていたと思われます。遺物はこの粘土層から多く出土し、特に蛇行する部分からは土器の完形品も見つかっています。

## 3. 出土遺物

遺物は奈良・平安時代の土師器(はじき)・須恵器(すえき)・黒色土器などが、主に河川跡や住居跡から多く出土しており、これまでに整理箱30箱分の量を数

えます。

土器はほとんどが破片ですが、復元して完形になるものもあり、煮炊き用の土師器の甕(かめ)、貯蔵用の須恵器の甕・壺(つぼ)、食器である須恵器や黒色土器の坏(つき)などが認められます。坏には、底部が大きく器の高さが低い形状の奈良時代のものと、小さな底部で器高が増す平安時代のものがあり、その形態の違いからおよそ一世紀の時期幅があるものと考えられます。

14区で見つかった中世の溝跡からは、内側に取手が付く置賜地方特有の土塙(どなべ)や、下駄などの木製品が出土しました。

## 4. まとめ

馳上遺跡は、羽黒川右岸の後背湿地上に営まれた奈良・平安時代を中心とした集落跡です。第1次・2次調査の内容も加えて、これまでの調査成果をまとめると以下ようになります。

今回発見された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡や土坑、中世の溝跡などです。調査区における遺構の分布状況から、集落跡の中心部は遺跡範囲の西側であることが分かりました。出土した遺



調査の様子 (14区東側)

物は奈良・平安時代の土器が主体で、その多くが住居跡や河川跡から出土しています。

河川は流路を幾度か変えながら北流しますが、集落もその変化に応じて中心を移したことが窺われます。また、河川沿いに検出された大型の建物跡は当時の倉庫と思われ、船運を利用した物資の集積場所であった可能性が想定されます。第1次・2次調査では、硯(すずり)や墨書土器といった郡や郷の役所と関連した遺物も出土しており、一般的な農耕集落とは異なる様相が窺われます。



馳上遺跡（はせがみいせき）第3次調査  
第14区遺構配置図



- 凡例
- 竪穴住居跡
  - 河川跡
  - 溝跡
  - 掘立柱建物跡



0 10m  
S=1:400



竪穴住居跡 遺物出土状況（14区東側）



竪穴住居跡（14区東側）



竪穴住居跡（16区）



炭化材が出土した竪穴住居跡（14区西側）



掘立柱建物跡（14区東側）



竪穴住居跡のカマド跡から出土した須恵器、土師器（16区）



竪穴住居跡内から出土した土師器 甕（16区）



河川跡から出土した須恵器 壺（17区）